

平成30年度 学校評価書

静岡市立清水桜が丘高等学校

I 経営の重点に関わること

(自己評価 A:十分効果を上げた B:効果を上げた C:効果が上がっていない)

1	学校教育目標 自己実現に向かって挑戦し、未来を切り拓くたくましい若者を育成する	自己評価	学校関係者評価委員から
2 重点 目標	(1) 心身の健康、豊かな人間性と規範意識の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問した際に元気な挨拶ができており、気持ちがよい。交通事故防止指導・マナー指導もよくできている。 ・交通マナー、特に自転車マナーの指導をお願いしたい。 ・授業理解については「どちらともいえない」生徒の分析が急務。 ・アクティブラーニング型の指導は企業でも取り入れており、100%実施を目指してほしい。 ・部活動の活躍、地域社会との連携などもよい。 ・防災についての意識の向上が見られいじめ防止の取り組みもできている。 ・「働き方改革」を目標に盛り込むのであれば、もう少し内容項目を検討する必要がある。今のままでと職員の意欲を削ぐものになってしまわないか心配。 ・働き方改革について、部活動の指導・教科の研修・対外的な活動も多く、現状では難しい。改革の前に職員の増員が必要。
	①気持ちのよい挨拶ができると答える生徒 75% 【学校説明】できる場面とできない場面がある。また、学科によっても違いがあるように感じる。(生徒アンケートで「非常にそう思う」「そう思う」と答えた生徒 75%以下の項目も同じ)		
	②社会のルールを守り、マナーに気を付けていると答える生徒 87% 【学校説明】概ね良好だが、交通マナーや電車内のマナーについて指摘を受けることもある。(86%)		
	③問題行動等発生件数、交通事故件数が前年度に比べ減少する 【学校説明】残念ながら、交通事故件数は前年度よりも増加した。苦情の電話もある。		
	④自分には良いところがあると答える生徒の割合 60% 【学校説明】前年度に比べて5ポイントほど増加した。(64%)		
(2) 知識・技能にとどまらない幅広い学力の育成と進路希望の実現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」を目標に盛り込むのであれば、もう少し内容項目を検討する必要がある。今のままでと職員の意欲を削ぐものになってしまわないか心配。 ・働き方改革について、部活動の指導・教科の研修・対外的な活動も多く、現状では難しい。改革の前に職員の増員が必要。 	
①授業の内容が分かると答える生徒 50% 【学校説明】ほぼ前年並みの回答率(45%)。41%存在する「どちらともいえない」生徒を引き上げたい。			
②アクティブラーニング型の授業を実践している教師の割合 80% 【学校説明】教員の取り組みは良好。様々な工夫が見られる。			
③自分の考えを説明したり表現したりする力が身に付いていると答える生徒の割合 40% 【学校説明】どれくらい力が付いたのか実感できる評価方法の工夫が今後の課題。グループワーク型の授業に困り感を抱いている生徒もあり、それにどう対応するかも今後の課題である。(36%)			
④ICTを活用した授業を受けていると答える生徒の割合 70% 【学校説明】前年度に比べて8ポイントほど増加(73%)。工夫した授業実践が多く見られた。			
⑤進学希望者の2学年末の希望進路達成率50%以上、県内国公立大学合格10人以上を実現する 【学校説明】H30卒業生の2年末国公立大学希望者71名、国公立大学合格者19名。			
⑥就職希望者の就職決定率100%を継続する 【学校説明】希望者69名全員の就職が内定した。			
⑦進路指導計画に目標として示す資格を取得した生徒の割合80%【学校説明】簿記2級84.5%、情報処理2級86.9%(以上2年生)、簿記3級98.1%、情報処理99.2%(以上1年生)			
(3) 基礎的汎用的能力を中心とする能力や態度を育成するキャリア教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」を目標に盛り込むのであれば、もう少し内容項目を検討する必要がある。今のままでと職員の意欲を削ぐものになってしまわないか心配。 ・働き方改革について、部活動の指導・教科の研修・対外的な活動も多く、現状では難しい。改革の前に職員の増員が必要。 	
①主体的に取り組んでいることがあると答える生徒の割合60% 【学校説明】前年度に比べて微増した。(60%)			
②挑戦していることがあると答える生徒の割合68% 【学校説明】ほぼ前年並みの回答率(65%)。「さくらチャレンジ」を利用して様々な活動をした者もいた。			
③複数の部活動が東海大会、全国大会に出場する 【学校説明】男女ハンドボール部がそろって全国総体に出場したほか、ワープロ部・将棋部が全国大会に出場した。また、美術部が全国高文祭に出品した。サッカー部が東海総体、野球部が秋季東海大会に出場した。			
④商業、家庭科、総合的な学習の時間、部活動を軸に、地域・社会と連携した活動を推進する 【学校説明】静岡大学・清水エスパルス・静岡市役所をはじめ、多くの方に授業に参加していただいた。将来の職業選択につながる取り組みを早い時期から実施していきたい。			
⑤総合的な学習の時間において探究的な活動を新たに実施する 【学校説明】「シチズンシップ学習」「サッカー学」本校としての基本形は出来たのではないかと。今後、キャリア教育の視点がますます必要となるだろう。			
(4) 市民の信頼に応える学校経営の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」を目標に盛り込むのであれば、もう少し内容項目を検討する必要がある。今のままでと職員の意欲を削ぐものになってしまわないか心配。 ・働き方改革について、部活動の指導・教科の研修・対外的な活動も多く、現状では難しい。改革の前に職員の増員が必要。 	
①信頼できる先生がいると答える生徒の割合55% 【学校説明】前年度に比べて微減した。(49%)			
②HPや配布物等により、学校の様子がよく分かれると答える保護者の割合73% 【学校説明】前年度に比べて4ポイントほど減少した。(67%)			
③地域と連携した防災勉強会を開催し、平成31年度末までに実効性ある避難所運営計画を作成する 【学校説明】本校生徒の参加も少しずつ増えてきた。			
④いじめの未然防止、早期発見、再発防止のための取組を確実に実施し、いじめ防止に努めるとともに、取組体制について、学校外関係者の助言も踏まえて点検する 【学校説明】ケース会議で情報共有していたことがいじめ対策組織で役立った。SNSの広がりに対応できる組織作りも必要になるだろう。			
⑤平成31年度入学者選抜における、定員を上回る志願者を確保する 【学校説明】中学校訪問を増やす、学校紹介リーフレットを作成するなど、情報の発信に努め、定員を上回る志願者を確保した。			
(5) 働き方改革	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革」を目標に盛り込むのであれば、もう少し内容項目を検討する必要がある。今のままでと職員の意欲を削ぐものになってしまわないか心配。 ・働き方改革について、部活動の指導・教科の研修・対外的な活動も多く、現状では難しい。改革の前に職員の増員が必要。 	
①日課や朝学習等を工夫するなどして、最終退出時間が午後9時以降になる日数を29年度よりも少なくする。 【学校説明】あまり変わらない。強制的に施錠する日を設けるなどの対策も必要ではないか。			
②クラッシーなどの教育支援ツールやICT機器により、教師の負担を軽減する 【学校説明】便利な機器が導入されているのは確かだが、負担軽減にはあまりつながっていない。			

II 各指導部・領域に関わること

(自己評価 A:十分効果を上げた B:効果を上げた C:効果が上がっていない)

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員から
1 教育課程学習指導	(1) 確かな学力の定着 【市共通項目1】	①基礎基本の徹底と学習の習慣化を図るとともに、ICTの活用などによるわかりやすい授業を実施する。 ②総合的な学習の時間を活用して、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 ③「職場体験学習」「外部講師による講座」をはじめ、実社会との連携による教育活動を推進する。 【学校説明】学習効果を高めるための様々な工夫はなされている。一方で、生徒の学習の習慣化は不十分である。各教科からの宿題の見える化等を通して「最低やるべきこと」をはっきりさせることも必要ではないか。	B	・学習効果を高める工夫は見られるが、さらに取り組み、「最低やるべきこと」を示してほしい。 ・「道徳教育の全体計画」の周知について、今後の改善を期待する。 ・語学研修や国際理解教育の取り組みは大切。今後も充実した取り組みを期待したい。
	(2) 道徳教育の充実 【市共通項目2】	①「道徳教育の全体計画」を周知し、各教科、科目において道徳教育に関わる単元・項目を考慮して授業展開を図る。 ②命の大切さや弱者へのいたわり、他人に対する奉仕のこころを養うため社会貢献活動を奨励し、その為の啓発活動を推進する。 ③規範意識、マナー、生活態度等の指導に職員全体で取り組むとともに、望ましい姿勢について生徒自身に考えさせる機会を作る。 【学校説明】ボランティア活動の機会をはじめ、様々な場面でいたわりや奉仕のこころを養う教育に取り組んでいるが、「道徳教育の全体計画」の周知が不十分であった。身装検査の意味を生徒にもっと伝えていきたい。	A	
	(3) 特別活動の充実 【市共通項目3】	①さまざまな学校行事を通して、生徒の自主性や主体性を育み、望ましい人間関係を形成する態度を育成する。 ②修学旅行や海外語学研修のプログラムを充実させ、国際理解教育の推進を図る。 【学校説明】語学研修では出発曜日を変更して現地語学学校での授業数を増やした。様々な行事の中で、生徒が前面に出る部分をもっと増やしていきたい。	A	
2 生徒指導	(1) 一人ひとりを大切にしたい指導 【市共通項目4】	①普段から生徒の言動に十分気を配り、また、対一の面談をする機会を設け、目標に向けた取り組みを支援し、個々に適した対応を心掛けるとともに、こころの交流を図る。 ②生徒相談・学校カウンセラーを効果的に活用し支援の必要な生徒に対して、適切に対応する。 【学校説明】毎年相談室を必要とする生徒が増えている。十分に活用していきたい。面談を、今後の自分の姿を共に考える機会としたい。	A	・一人ひとりを大切にしたい指導が行き届いている。 ・いじめ対策について、個々の教員の取り組みは共有した上で対応を。保護者・カウンセラー・相談員との連携も必要だと思う。 ・生徒会委員会でも対策委員会の設置等を提案してはどうか。
	(2) 校内のいじめ対策組織の運営の適正 【市共通項目11】	①「いじめ防止等のための基本方針」を策定して職員に周知し、共通理解のもとに対処する。 ②「いじめ対策組織」を設置し、定期的に情報交換をする。 【学校説明】年2回のいじめアンケート実施後、「いじめ対策組織」を開いて情報を共有し、個々の事例への対応を検討した。	A	
	(3) いじめの早期発見、状況把握と対応の適切化 【市共通項目12】	①年2回実施しているいじめアンケートの内容をより実態が把握できるように見直す。また、事後の対応を相談室と連携して行う。 ②教育相談体制を整備し、生徒・保護者がいじめを訴えやすい環境を整え、実態把握に努める。 【学校説明】いじめアンケートの内容を見直し、SNSについても尋ねた。教員側がアンテナを高くする必要がある。	A	
	(4) いじめの再発防止に向けた取組 【市共通項目13】	職員を対象として、いじめの未然防止に向けた取組に関する研修会を行う。また、生徒に対しては生徒会主催の啓発活動を行う。 【学校説明】職員に対しては「ユニバーサルデザイン教育」の研修会を実施した。生徒に対しては風紀委員会・保健委員会がプレゼンテーションを行い、啓発活動を実施した。	A	
3 進路指導	一人ひとりの進路の実現	①生徒の進路希望や生活の様子を把握し、適切な学習支援・助言を行う。 ②講習や模擬試験等を通じて、学力向上や検定取得を目指す。 ③進路意識を高める行事を企画する。(大学見学・模擬授業・職場体験学習・講演会等) 【学校説明】講習や進路行事は計画的に実施できた。学年やHRの指導を通して進路に対する意欲を高める工夫が必要。	A	A
4 安全管理・指導	学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①生徒の交通安全に万全を期すため、交通安全教室や交通安全指導(登校指導)などで周りを常に意識した交通ルール・マナー遵守の徹底を図る。 ②「学校安全計画」を策定し、防災避難訓練を計画的に実施する。また生徒・職員の防災意識の高揚に努める。 【学校説明】安全に関する指導は計画通り実施した。交通事故件数の増加を踏まえ、委員会と共に方策を再検討したい。	B	B
5 保健管理・指導	健康教育の充実 【市共通項目6】	①自ら正しい健康管理ができ規則正しい生活習慣を身につけさせるとともに、生徒の事故防止に努め、定期的に害虫駆除など実施し、環境衛生にも配慮する。 ②校内救急体制を迅速に実行できるようにする。 ③健康診断の結果、要治療生徒には必ず受診するように指導する。 【学校説明】委員会の生徒を中心とした環境衛生活動が実施できた。また、定期的に害虫の予防措置を講じた。全体の健康管理意識を高めた。	B	B
6 特別支援教育	学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①教育相談に関わる研修を計画的に行う。 ②特別支援の必要な生徒の把握に努めるとともに、必要に応じた支援を行う。 ③個に応じた特別支援の方法の研究、個別の支援計画の作成を進める。 ④スクールソーシャルワーカー(SSWr)の活用方法の活用と実践に努める。 【学校説明】いじめ対策にSSWrの助言を役立てることが出来た。未然防止・早期発見に有効であった。	A	A
7 組織運営	組織・運営の改善 【市共通項目8】 時間管理の徹底	日課や朝学習等を工夫するなどして職員の最終退出時刻が午後9時以降になる日数を29年度よりも少なくする。 【学校説明】あまり変わらない。強制的に施錠する日を設けるなどの対策も必要ではないか。	C	・トップダウンで進めることも大切だが、各自が働き方を一工夫したくなるような内容にできないか。 ・難しいとは思いますが、教員の負担軽減にも努めてもらいたい。
	組織・運営の改善 【市共通項目8】 事務業務の軽減	クラッシーなどの教育支援ツールやICT機器により、職員の負担を軽減する。 【学校説明】便利な機器が導入されているのは確かだが、負担軽減にはあまりつながっていない。クラッシーの利点が十分に理解されていないので、研修会等で広めたらどうか。	B	

8 研 修	研修体制の充実 【市共通項目9】	①校内研修テーマ（アクティブラーニング研究）に沿った研修会を前期・後期年2回定期的に実施する。 ②授業公開週間を前期・後期年2回、3週間ずつ実施し、教員の教科指導力向上と生徒の実態把握に努める。 ③各種研修会・研究会・講演会などの情報提供を積極的に行なうように努める。 【学校説明】計画通り実施した。アクティブラーニングについての教員の理解はかなり深まった。	A	A	・着実に成果をあげている。これからの社会を生きる生徒にとって必要な力を育てることは我々の永遠の責務だ。
9 保 護 者 ・ 地 域 の 住 民 等 と の 連 携	信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①本校の教育目標・方針や教育活動を積極的に紹介し、定期的にHPの情報を更新する。 ②学校行事を保護者や地域住民にも案内し、本校の教育活動に理解と協力を求めるとともに、本校の持つ教育機能を広く地域社会に還元する。地域防災や、ボランティア活動への積極的な参加を推進する。 ③PTA総会・地区PTAを通じて保護者や同窓会員に学校の教育方針・教育内容や学校の現況を伝え、理解・協力を求めると同時に、同窓生・保護者からも広く意見を聴取する。また、PTA広報紙では同窓会の活動の様子を保護者に発信する。 ④中学生やその保護者に授業を公開する 【学校説明】学校案内・PTA広報誌は計画通り発行した。PTA総会・地区会を通して学校の方針・取組を丁寧に伝えることができ、学校理解につながった。学校行事には大勢の保護者・関係者が来校された。	A	A	・目標に掲げられている行事等を通して、地域や保護者との連携ができています。 ・マナーについての苦情もあるようだが、近隣住民との登下校時の挨拶などを通して評価を得たい。
10 施 設 設 置	教育施設設備の充実と安全管理	施設・設備、用具・器具は日常的に点検を実施し、安全の確保を図る。 【学校説明】昨年危険が指摘された箇所の安全対策が完了した。用務員による安全点検を日常的に実施している。	A	A	

学校から経営のまとめ（成果と課題）

「清水桜が丘高校グランドデザイン」策定2年目となり、若干の改訂はあったものの、前年度に示された中長期的な視点を持って学校教育活動に取り組んだ。特に、今年度は「グランドデザイン」に示された「育てたい資質・能力」に関連して「教科で身に付けさせたい力」を検討し、「育てたい生徒像」と日常の授業のつながりをより強く意識するように努めた。また、前年度初めて実施された「保護者・生徒アンケート」の集計結果を今年度の評価指標に取り入れ、教育活動の中で保護者や生徒の生の声を意識できるよう工夫した。その結果、今年度の目標とした事柄については、ほぼ達成できたと言える。

具体的には、堅調な就職・進学実績をはじめ、アクティブラーニング型授業の広まり、多くの部活動の全国・東海レベルでの活躍、防災勉強会をはじめとする地域とのつながりや地域貢献があげられる。また、困り感を抱えている生徒に対して、校内の対策組織が素早く対応したり、スクールソーシャルワーカーと連絡を取り合ったりして必要に応じてケース会議を開くことができたことも、今年度の成果としてあげられる。

一方で、今年度新たに評価項目に付け加えられた「働き方改革」については、ほとんど成果があげられなかったというのが現実である。授業や校務でのICT機器の活用が進み、老朽化した機器の更新も行なわれたが、そのことが職員の負担軽減につながっていない。目標とした退校時間についても状況はほとんど変わっていない。来年度は1時間目の開始時刻を10分前倒して放課後活動に早く取り組めるようにしており、一層の改善を図りたい。

ほぼ順調な一年だったと振り返ることはできるが、今後に向けて、新しい学力観に基づく学力を身に付けさせること、また、そのために学校全体の教育活動を全体でチェックして改善し、さらに実行に移していくというサイクルを確立することを目指していきたい。